

つながりの中で暮らす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 61

2019年7月発行

法人設立15周年記念フォーラム

つながりの中で暮らす 自分らしく生きていく ～子どもの居場所づくりにむけて～

日時：2019年6月15日（日）13:00～16:30

会場：大阪市立清水小学校 体育館

共催：特定非営利活動法人 両国人権・福祉・交流センター
清水地域子育てボランティアグループ

後援：大阪市教育委員会、大阪市旭区役所、大阪市旭区社会福祉協議会、
清水校下地域活動協議会、新森校下地域活動協議会、両国人権教育
ネットワーク、清水小学校PTA、新森小路小学校PTA、旭東中学校PTA

参加者：おとな55名、こども8名、計63名 うちボランティア21名

<プログラム>

第一部 講演 今、子ども・若者と家族が求めている支援とは？

～子どもの「居場所」の意味と役割～

講師：川口正義氏（認定社会福祉士）子どもと家族の相談室「寺子屋お～ぷん・どあ」共同代表、一般社団法人てのひら代表理事、
静岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー&スーパーバイザー、東北福祉大学・千葉大学非常勤講師



第二部 みんなで語り合おう！ 子どもの居場所づくり

「子ども」と「おとな」をこえて

ファシリテーター：新崎国広（大阪教育大学・当法人監事）

第一部の川口氏による講演は、たくさんのスライドを使いながら、ご自身の体験、出逢ってきた当事者たちの話、子どもを取り巻く社会状況、実践の紹介などを熱く伝えてくださいました。当法人理事長向井による開会挨拶の「つながり」「ありのままの自分」「自尊感情」などつながった内容でした。私たちそれぞれが、当事者を前に何を感じ何を思いどう動くかを考えていかなければならないと思いを強くしました。

第二部のグループディスカッションは、孤立をさせない社会への想い、お節介は節度ある介（仲立ち）であることなど、新崎の想いを伝えることから始まりました。そして、各グループで、自己紹介と講演の感想を共有し、子どもの居場所について、それぞれの

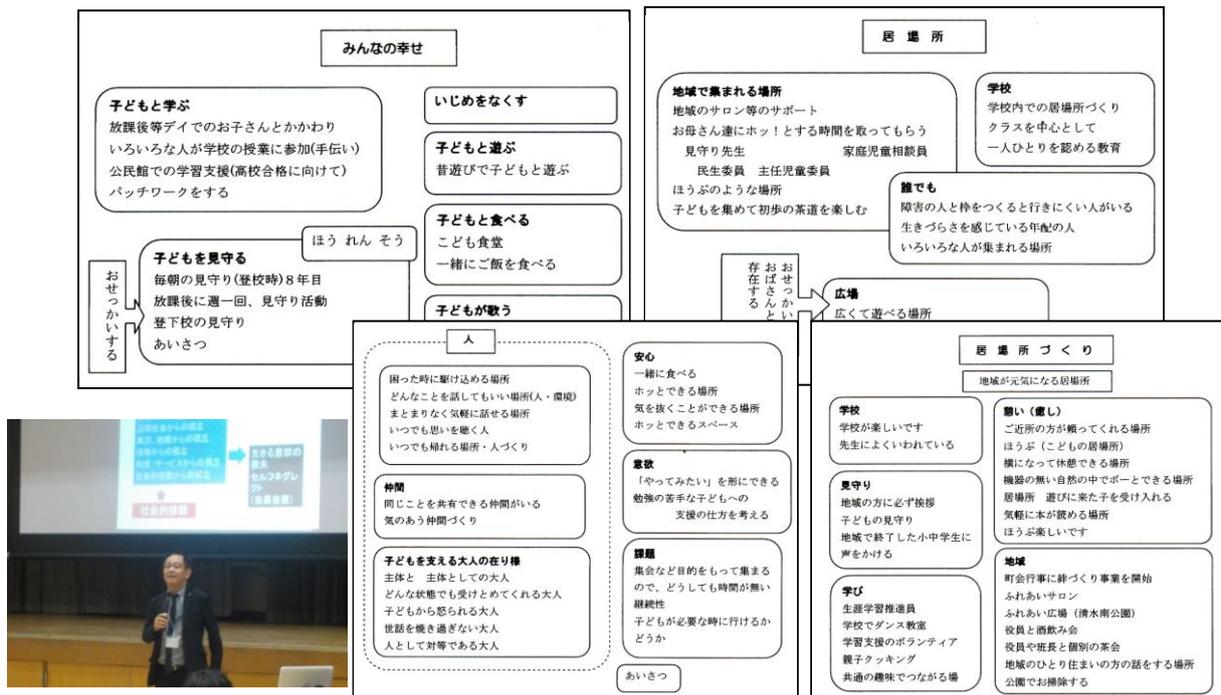
意見を付箋に書いて模造紙に貼りつけ、意見を出し合いました。最後に、それぞれが自由にグループを回り、気になるグループの話听取了きました。

地域の様々な立場の方々や専門機関の方々に参加してくださいました。休憩時間やグループディスカッションの発表時間には、会場の皆さんが活発に交流をされていました。共催団体の方々会場設営や片付けを一緒にしてくださったり、開会前や休憩時間に子どもたちがお菓子を配って回ったり、温かなつながりを感じるフォーラムとなりました。感想を読んで、参加者の皆さんが、深く考え元気になっていただけたと感じました。

みなさま、本当にありがとうございました。

<参加者の感想から>

- ・ とても勉強になりました。いろいろな話が聞けて面白かったです。子どもと一緒にグループワークをするって新鮮でとても良かったです。子どもの居場所を考えると、子どもの話を聞かないと実りのある話し合いにならないと気づきました。
- ・ 自分自身の子どもたちへの向き合い方を見つめなおす良い機会になりました。月曜からまた仕事を頑張ろうというパワーをいただきました。
- ・ 川口先生のお話を伺い、改めて支援の在り方かわり方を考えさせられました。第二部で皆さんと話し合っていく中で、どんどん話がつながり、全く関わりのないことと思っていたことも繋がり、見るだけでなく繋いで組み立てられることもできることを知りました。



平成30年度事業報告

平成30年度は、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業（放課後等デイサービス）と障害児者の自立に向けた支援事業、子育て支援事業、生涯学習講座等の企画・運営支援事業、まちづくりの推進に関する企画及び研究事業を実施した。地域住民や関係機関と連携しながら地域に密着した活動を展開することができた。

（1）児童福祉法に基づく障害児通所支援事業（放課後等デイサービス）

利用者の満足度調査を実施して当法人ホームページに結果を掲載し、運営上の改善を図り、支援内容の検討・改善を行った。エルムおおさかの訪問指導、子どもの権利についての研修、虐待防止の研修、就業規則についての研修などを実施し、職員ミーティングやアルバイト職員の振り返りを日々行うことで、支援内容の充実を図り、職場環境の改善を行った。職員の質の向上につながり、子どもの主体性を育むことを考えながら支援を行うことができた。「子どもからはじめる個人将来計画」による計画作成及び実践を継続することで、保護者と信頼関係を築き、それぞれの子どもに対して関係機関とのネットワークを構築したり、高校卒業の生徒の次のステップにむけての引継ぎを行ったりすることができた。さらに、「自立生活プログラムこども版」を用いて、「食」「働」「住」をテーマにしたプログラムを実施し、子どもたちの生活体験を広げることができた。「働」をテーマにしたプログラムにおいては、地域の方々の協力を得てしごと体験を行うことができた。季節の行事や外出イベントに関しても、地域の方々や学生ボランティアの協力のもとで行い、子どもたちの体験の幅を広げることができた。地域住民や学生ボランティアの協力を得ることで、障害児に対する意識啓発をすすめることができた。また、避難訓練を行ったり、地域の防災訓練に参加したり、防災センターに行ったり、防災についての座談会に参加したりして、防災の取り組みも行うことができた。

（2）障害児者の自立に向けた支援事業

毎年恒例となった浴衣を着て夜店に行くイベントで、老人クラブ連合会のご協力により、子どもたちも学生ボランティアも貴重な体験をすることができた。9月には障害をもつ子どもたちがボランティアのサポートにより1泊の宿泊体験を行った。初めて保護者から離れて宿泊体験をした児童生徒もおり、子どもたちにとって貴重な体験の機会となった。旭区社会福祉協議会や清水地域活動協議会のイベントに参加し、子どもたちが自分の作品を販売したり、ゲームコーナーを出店したりして、地域の方々と交流をはかることができた。また、旭区地域自立支援協議会に参加し、地域の関係団体とのネットワークにより障害者の地域生活支援に取り組み、防災をテーマとした「和んで座談会」の開催に参画した。同協議会こども部会では、昨年度に続き、就学進学相談会と保護者向けセミナーを行い、障害児の家族の支援に取り組んだ。同協議会の新しい取り組みとして、事業所連絡会（児童）の準備会と第一回事業所連絡会に参加し、区内の障害児通所施設とのつながりを深めた。

（3）子育て支援事業

旭区の子育て支援関係機関の集まりである「旭区子育て安心ネットワーク会議」や「あさひの輪」の定例会への参加、旭区内の子育て支援イベント「子育てわいわい広場 in ASAHI」の開催協力を通じて、区内の子育て支援の充実に向けての活動を継続した。また、清水地域の主

任児童委員、民生委員、小学校、保育所、幼稚園などと協働で、清水地域子育てボランティアグループを立ち上げ、子育て世帯、特に乳幼児の家庭にむけた清水地域の情報発信など、地域に密着した子育て支援に取り組む体制をつくることができた。

(4) 生涯学習講座等の企画・運営支援事業

昨年に続いて社会福祉施設の新人職員研修会や、小学校教職員対象の人権研修会や、中学校の生徒と職員を対象にした人権学習の講師を行い、障害児理解の啓発活動に取り組んだ。

(5) まちづくりの推進に関する企画及び研究事業

清水校下地域活動協議会の定例会への参加、地域の異世代交流イベントの開催や子育てサロンクリスマス会への協力、防災の取り組みの参加を通じて、地域の方々との関係を深めながら地域活動に参画することができた。



平成30年度 貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 地域生活サポートネットほうぶ

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	6,060		
預金			
普通預金 三井住友銀行 千林支店	473,689		
普通預金 三菱東京UFJ銀行 森小路支店	7,659		
未収金			
障害児通所給付費 (2月3月分)	3,707,125		
流動資産合計		4,194,533	
2 固定資産			
建物附属設備	528,067		
固定資産合計		528,067	
資産合計 (A)			4,722,600
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
人件費 (3月分)	1,332,471		
預かり金			
社会保険料	85,469		
源泉所得税	82,808		
流動負債合計		1,500,748	
負債合計 (B)			1,500,748
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,883,736	
当期正味財産増減額		338,116	
正味財産合計 (C)			3,221,852
負債及び正味財産合計 (B) + (C)			4,722,600

平成30年度 活動計算書
自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

特定非営利活動法人 地域生活サポートネット ほうぶ

科目	金額 (単位:円)	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	50,000	
賛助会員受取会費	169,000	
会費収入合計		219,000
2 受取寄付金		
受取寄付金	19,000	
受取寄付金		19,000
3 受取助成金等		
受取民間助成金	0	
受取助成金合計		0
4 事業収益		
障害児通所支援事業収益		
障害児通所給付費	19,461,303	
自己負担料 (利用料)	420,290	
実費負担分 (創作材料)	171,266	
障害児者の自立に向けた支援事業収益	46,550	
事業収入合計		20,099,409
5 その他収益		
受取利息	11	
その他収入合計		11
経常収益合計		20,337,420
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給与手当	9,268,071	
賞与手当	1,414,000	
法定福利費	1,707,564	
通勤費	344,920	
福利厚生費	112,250	
人件費計	12,846,805	
(2) その他経費		
創作材料費	188,091	
印刷製本費	3,535	
諸謝金	27,844	
旅費交通費	65,640	
通信費	142,820	
消耗品費	178,152	
修繕費	28,000	
水道光熱費	144,081	
賃借料	1,430,000	
行事費	242,016	
新聞図書費	17,854	
保険料	68,764	
研修費	172,000	
雑費	51,515	
その他経費計	2,760,312	
事業費合計		15,607,117
2 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	3,216,000	
法定福利費	49,511	
福利厚生費	61,759	
人件費計	3,327,270	
(2) その他経費		
旅費交通費	6,830	
通信費	46,286	
接待交際費	8,100	
減価償却費	90,214	
租税公課	600	
支払手数料	744,800	
雑費	50,787	
その他経費計	947,617	
管理費合計		4,274,887
経常費用計		19,882,004
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		455,416
法人税、住民税及び事業税		117,300
当期正味財産増減額		338,116
前期繰越正味財産額		2,883,736
次期繰越正味財産額		3,221,852

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

楽童ほうぷでは、5月からFacebookを始めました。土曜日や長期休暇中の社会体験のようす、日々の活動のようすなどをお知らせしています。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/gakudo.houpu/>

今年度も、毎月土曜日に創作活動、音楽活動、社会生活体験（外出やイベント）を行います。平日の活動も、おやつ作り、創作活動、ボードゲーム、公園遊びなど、子どもの「やりたい」想いが芽生え、体験を重ねたり身体をバランスよく使う遊びができたりするように、それぞれの個別支援計画にも沿いながら、子どもたちと一緒に過ごしています。

社会体験活動では、4月は鶴見緑地公園に遠足に行きました。5月は地下鉄と阪急電車に乗って、池田市の五月山公園に行きました。切符を買ったり電車に乗ったりする体験もできました。子どもにとって、しっかり歩いて身体をつくっていくことや自然の中で思い切り身体を動かして遊ぶことはとても大切なことです。7月には京阪電車に乗って大阪市立科学館に行きました。プラネタリウムを見たり展示を見たり、いろいろな体験をしてきました。毎回、大学生ボランティアがたくさん参加してくれます。この春は、あちこちの大学の授業でボランティア募集の声かけをさせていただいたこともあり、新しいボランティアも参加してくれるようになりました。6月にはボランティア交流会も開催しました。

音楽活動は、武庫川女子大学の音楽療法専攻の学生さんたちが、毎月、工夫を凝らしたプログラムを組み立てて、子どもたちと一緒に音楽を楽しむ時間をつくってくれました。

創作活動は、さをり織り、スライム、段ボール工作、6月の「カフェほうぷ」のインテリア作り（スタンドガラス風電灯カバーやビー玉を転がして色付けした布カバー）等を行いました。7月には夏の夜空の壁面画を描いたり、七夕の笹の絵に短冊を貼りました。

平日、よく行っているのは、おやつ作り。シュークリーム、ガトーショコラ、抹茶ケーキ、チーズケーキ、フルーツゼリー、あんドーナツ…等等など、子どもたちの「やりたい」を受けて、いろいろなお菓子に挑戦しています。土曜日のクッキングも、菜園でとれたトマトやキュウリをサラダに使ったりしながら、いろいろなメニューを作っています。

関係機関や地域との連携では、当法人の15周年記念フォーラムに数名の子どもがボランティア参加してくれました。フォーラムの翌週には、「カフェほうぷ」を一日開店して、子どもたちがしごと体験と地域の方々との交流をしました。また、高校進学を控えた中学3年生の生徒の『個人将来計画ワークショップ』を開催し、ご本人と保護者さん、中学の先生、関係機関の方々、当デイの子どもたちが参加して、意見を出し合いました。近隣の小学校や中学校に伺い、ケース会議もさせていただきました。夏休みは、利用生徒の高校にも伺って学校でのようすや目標などを聞かせていただく予定です。

保護者向けには、5月に中学生の保護者を対象に進路の勉強会を開催しました。義務教育終了後、さまざまな選択肢があることを知っていただけたと思います。また、「カフェほうぷ」では、保護者の方同士の交流の時間をもつこともできました。

事業の質を向上させるために、5月に保護者に対して事業所評価のアンケートを実施し、職員間でも自己評価を実施しました。また、外部の委員による運営委員会を開催し、昨年

度事業報告を行い、今後の計画についてご意見をいただきました。

夏休みには、「おしゃれ」をテーマに3回コースの『自立生活プログラム』や、中高生を対象に「しごと体験」、高校生を対象に『自分研究』を行います。また、呼吸トレーニングやピラティスなど、講師を招いて「からだほぐしのワークショップ」を開催します。



鶴見緑地公園遠足

日程：2019年4月27日（土）

参加者：子ども6名、学生ボランティア8名

木陰の芝生で昼食の後、風車の丘に行ったり子どもの森に行ったりして活動をしました。いいお天気で人も多かったです、広い公園で学生と一緒にのびのびと遊びました。片道30分近く歩いたので、往復だけでもいい運動になりました。



五月山公園&動物園

日程：2019年5月25日（土）

参加者：子ども6名、学生ボランティア11名

地下鉄谷町線と阪急電車を乗り継いで、池田市の五月山公園・動物園に行きました。公園では走り回ったり自然観察をしたり、思い思いに楽しみ、動物園では珍しい動物を見たり触れたりして楽しみました。暑さが厳しくて、池田駅から公園まで、坂道を歩くのが大変でした。ほうぷに通り始めて間もない子どもは、行き道でバテ気味でした。一方、成長をして、しんどくても我慢して年下の子どもを励ましながらか歩く子どももいました。体験を積み重ねていくことの大切さを感じます。公園では、遊具で遊んだり木陰でくつろいだりして、それぞれが楽しみました。その後、五月山動物園に行き、ウォンバットやワラビーやアルパカ等を見たり、小さな動物と触れ合ったりして過ごしました。5月ということもあり、新入学の大学生さんたちがボランティア活動の体験にたくさん来てくれました。

<ボランティアの感想から>

- ・私は、今回が初めてのボランティアでした。今日の体験は学ぶことばかりでとても勉強になりました。障害のある子どもたちとこれだけ1日中一緒に活動するのは初めてで不安でしたが、みんなとても良い子たちで、大変な時もあったけど、一緒にいて笑わせてもらったし、楽しかったです。みんなが皆それぞれの個性があって、面白かったし、とても歩いて疲れて

いたけど、自分の足で帰って来れて本当に良かったなと思いました。

- ・大学に入ったらボランティアをしたいなと思っていたので、ボランティアを体験することができてよかったです。ペアの子もだんだんと心を開いてくれているのかなと感じることもできたので、嬉しかったです。なかなか体験できないことや、この体験を通してしか感じることもできないことなどもあると思うので、貴重な体験をすることができました。楽しみながら、ボランティアをすることができたので、すごく充実感がありました。ありがとうございました。



カフェほうぶ

日程：2019年6月22日（土） オープン：午後2時～3時30分

参加者：子ども10名、学生ボランティア6名 来客：20名（うち子ども5名）

楽童ほうぶで一日カフェをオープンしました。子どもたちが店員さんになって、飲み物やお菓子を出したり、スライムづくりコーナーやさりを織りコーナーでお客さんに体験してもらったりしました。

<お客さんの感想から>

- ・子どもたちが頑張っていたこと、また楽しく明るく話し合えたこと、2回目だと思いますが、雰囲気が良いのでまた来ます。
- ・注文を聞きに来てくれた男の子の言葉や接し方がとても感じよかったです。
- ・息子の頑張っている姿が見れて良かったです。
- ・地域の方もたくさん来られていて地域密着のデイだなということを感じました。子どもたちが生き生きとしているのに感動です。

<ボランティアの感想から>

- ・スライムコーナーの担当をさせていただきました。子どもたちや他のボランティアさんとよく交流できたイベントでした。とても楽しかったです。
- ・Aさん（子ども）と一緒に、さをり織りコーナーを担当しました。初めて、さをり織りをやってみました。脳が混乱しそうでしたが、Aさんがしっかりしていたので、ほとんど見守りだけで終わりました。
- ・今回、初めての参加でとても緊張しましたが、子どもたちの笑顔とほうぶの温かな空気に触れて、すぐに打ち解けることができました。とても楽しく有意義な時間を過ごせました。カフェとボールプールを担当していたのですが、大経大の方々が率先して活動されていて、最初はどうしたら良いか戸惑いましたが、慣れてくると忙しくなると、その忙しさもとても楽しかったです。
- ・カフェほうぶには何度か参加していますが、年々クオリティが高くなっていると感じます。地域の方や家族の方を招いて交流する機会があるのは良いことだと思います。





科学館に行こう

日程：2019年7月13日（土）

参加者：子ども10名、ボランティア10名

京阪電車に乗って大阪市立科学館に行きました。団体扱いにしたり回数券にしたら安くチケットを購入できるのですが、子どもたちに切符を買う練習もしてほしいので、それぞれで切符を買ってもらい乗車しました。学生ボランティアが1対1で付いてくれたので、切符を買うのもスムーズにできました。最初にお昼ご飯を食べて、プラネタリウムに行きました。暗いところが苦手な子どもや大きな声を出す子どもを心配しましたが、それぞれに楽しんで見ることができたようでした。その後、数名でグループになって和気あいあいと体験をしたり、マイペースでボランティアの学生とじっくり見学したりして館内を回りました。

<ボランティアの感想から>

- ・就職してから久しぶりにほうぶに来ました。4か月ほうぶに行っていなかったのでみんな覚えてないと思っていたのですが、みんな覚えてくれていたので嬉しかったです。今後もほうぶでボランティアをする機会があればまた参加したいです。
- ・今日はBくんの担当でした。Bくんは、ほうぶでの初めてのお出かけで、科学館に着くまでは「疲れた」と言っていたので最後までもつか不安でしたが、着くとすごく元気になっていたのが良かったです。プラネタリウムも静かにマナーを守って見ていました。館内を回って色々なモノを体験するときに、順番を守らないことが多かったのですが、自分は注意しきれなかったところが反省点です。
- ・久しぶりに活動に来ました。めちゃ楽しかったです。初めてプラネタリウムを見たので、とても良い経験になりました。



●地域活動報告●

- 5月22日(水) 旭区地域自立支援協議会に参加
5月27日(月) 清水地域活動協議会に参加
5月29日(水) 旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童)に参加
6月6日(木) 清水地域子育てボランティアグループ定例会に参加
6月7日(金) 旭区子育て支援「あさひの輪」に参加
6月11日(火) ブックスタート(参加者1組)
旭区地域自立支援協議会こども部会に参加
6月14日(金) 「就学進学なんでも相談会」に(主催:旭区地域自立支援協議会こども部会)に相談員として参加(新森小路小学校)
6月19日(水) 旭区子育て安心ネットワーク会議に参加
6月26日(水) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(高殿小学校)
6月27日(木) 旭区「子育てわいわい広場」に協力参加
6月29日(土) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(旭区役所)
7月2日(火) 旭区地域自立支援協議会こども部会に参加
7月3日(水) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(太子橋小学校)
7月5日(金) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(古市小学校)
7月10日(水) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(城北小学校)
7月16日(火) 「就学進学なんでも相談会」に相談員として参加(清水小学校)
7月17日(水) 旭区地域自立支援協議会に参加

◆旭区地域自立支援協議会

<事業所連絡会(児童)>

「ポッチャ大会」 8月20日(火)13時~ 旭区民センター

<こども部会>

就学進学なんでも相談会を開催しました!

会場:旭区内10小学校と旭区役所 日時:6~7月 相談に来られた方:のべ27名

★子育て応援セミナーを開催します!

日時:8月24日(土)14:00~16:00 会場:旭区役所

内容:第一部 障害当事者による体験談 第二部 座談会

参加費:無料 定員:30名 一時保育:定員10名(事前申込要)

申し込み:06-6957-9857(旭区役所保健福祉課 地域福祉)

申し込み必要
締切 8月21日



旭区地域自立支援協議会こども部会主催の「就学進学なんでも相談会」を旭区内の10小学校にて開催しました。子どもに「できる」ことが増えてほしいという願いが強いあまり、さまざまな情報に惑わされて、どんな学校生活を送ってほしいのか、どのように成長してほしいのか、思い描くゆとりがもてていない保護者が多いように感じました。発達を目的化してしまっている社会が保護者を追い詰めているのかもしれない。「自分らしく生きる」ことが、保護者自身にもわかりにくい社会になっているのかもしれない。

できないことがあっても、失敗をしながらも、いろいろな人と支え合って暮らしていくことの大切さを改めて伝えていきたいと思います。